



2021年度大学3年生の社会的動機の様式における キャリア選択の分析

新井立夫
櫻井宏明
石塚浩

概要

本研究では、コロナ禍を過ごしている大学3年生においても自分の福利のためと考えていることと、他人の福利、集団の福利、原理性そして向社会的行動をとることは両立するか、という仮説について大学3年生にアンケート調査を実施し、分析を行った。その結果、「自分のため」とする価値観が高くても一定程度の向社会的行動がとれることが明らかになった。また、コロナにより制限のかかる行動や数年程度の過去や将来を中心に相関がない回答が増加しており、長引くコロナ対応が学生の考え方にも影響を与えていることが示唆されていることも判明した。さらに、「自分のため」と「学校や社会のルール、保護者の考え等」との間で葛藤する学生の姿も垣間見ることができた。本研究の成果は今後のキャリア教育や進路指導へ貢献することが期待される。

キーワード：キャリア選択、利己性、利他性、集団性、原理性、向社会性、コロナ禍

(投稿日 2022年1月12日)

文教大学経営学部

〒121-8577 東京都足立区花畑5-6-1

TEL：03-5688-8577 FAX：03-5856-6009

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/business/>

2021年度大学3年生の社会的動機の様式における キャリア選択の分析

新井立夫*
櫻井宏明**
石塚浩***

1. はじめに

本研究は、キャリア教育が想定している上級学校への進学や就職などを中心に、自分の福利のためと考えていることと、他人の福利、集団の福利、ルール等の順守そして他者に利益をもたらす自発的な活動は両立することを検証するためにアンケートを実施したものである。アンケート調査自体は対象学年を変更しつつ、2016年度から毎年度1回実施しており、2021年度は6回目となる。

2021年度は、コロナ禍（2019年末からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による災難・危機的状況）における大学3年生においても、自分の福利と他者への利益は両立するか、を念頭におき、コロナ禍及びコロナ後における労働環境の想定や準備に関する質問項目を加え、コロナ後を見据えた就職活動が如何にあるかを検討することとした。

2. 先行研究及び本研究の位置づけ

キャリア教育の研究に関しては、実際にキャリア教育に携わる実務的観点、将来賃金等への影響を推計する経済学的観点、心理学的観点から構成されるように感じられる。このうち、キャリア教育の課題及び本研究の原点については新井他（2016）にまとめられており、キャリア教育の先行研究は櫻井（2022）でも概観している。このため、本稿では、利己性を含むと考えられる広義の「キャリア教育」と利他性について、近年の経済学及び心理学の観点から簡単に先行研究をとりまとめ、本研究の位置づけを改めて確認することとする。このうち経済学的な観点からは大垣・大竹（2019）をもとに、心理学的な観点は石橋他（2020）をもとにとりまとめている。

2.1 経済学的観点からの先行研究

経済学からのアプローチとしては、理論的アプローチと実証的アプローチに分類できる。このうち理論的アプローチは、利他性を効用関数に組み込んだ際に発生する行動変化を推し量るものである（Bhatt et al. 2015など）。こうした分野は近年行動経済学として新しい学問分野を確立している。ただし、本研究は実証分析であ

* 文教大学経営学部
✉tatsuo@bunkyo.ac.jp

** 文教大学経営学部
✉hsakurai@bunkyo.ac.jp

*** 文教大学経営学部
✉ishizuka@bunkyo.ac.jp

るため、理論的枠組みは省略し、実証分析を中心に紹介する。

日本の教育方法が利他性を育む研究成果として、Ito et al. (2020) があげられる。Ito et al. (2020) では、日本の小学生のときに受けた教育がその後の社会的選好に与える影響について分析を行っている。着眼点と具体的な分析概要については以下のとおりである。日本では小学校の教育内容自体は教育指導要領によって定められているが、それ以外の場面、例えば運動会の徒競走で順位付けを行う・行わない・徒競走自体を行わないか、成績表が相対評価か絶対評価か、入学式・卒業式の国歌斉唱・国旗掲揚を行うか、教員のストライキがあるか、などは学校ないし地域に任されている部分もある。また、西日本の小学校は広島や長崎に修学旅行に行くことで平和教育を行う傾向が強いのに対し、東日本では9月1日の防災の日や二宮尊徳に関する教育が充実していることが考えられる。このように地域別にみたカリキュラムの差異を「隠れたカリキュラム」と呼び、17項目を選択した。また、他人のため、社会のため、という観点からは利他性、協力（成果）、協力（満足）、競争、信頼、など17項目を5件法で尋ね、20歳以上4,709人（60歳以上894人）から回答を得たデータをもとに、①左翼的思考、②非競争的、③参加と協力、④勤勉と努力、⑤個人の権利と平和、の5つの因子に分類した。さらに、個人に属する特性を調整し、各都道府県ごとの特徴を推計した結果、③と⑤に地域的な差異が、④に年齢別の違いがみられた。ここから地域別に「隠れたカリキュラム」が存在すると考えた。5因子を説明変数として利他性を被説明変数とする回帰式を行ったところ、参加と協力は正に有意に相関、非競争的とは負に有意に相関が各々みられ

た。ここから、「隠れたカリキュラム」において、徒競走の順位付けなどの参加型・協力型教育を受けてきた児童は利他的になるのに対し、非競争的な教育を受けた児童はその後利他的でなくなるという、予想とは逆の動向を示している。

この他、外国の例として、Alan and Ertac (2018) では、トルコの小学校3年生、4年生に将来の自分をイメージし自己改善する能力を伸展していく授業を受講した児童は将来のためにより我慢強くなる効果が3年程度持続することを示した。

以上は個人の能力に着目した研究であるが、この他、教育を社会インフラとみなした場合の研究も進んでいる。Algan et al. (2013) では、25か国のデータからグループ学習と板書を中心とした講義が生徒に与える影響を分析し、グループ学習の導入が協力に関する信念を強化することを示している。また、Cantoni et al. (2017) では、中国における2004年から2010年のデータを使用し、学校の新カリキュラム（政治科目のより親中国統治内容）が地域によって異なるタイミングで導入されたことを利用して、生徒の思想的信念が影響を受けたことを示している。

これらの先行研究はいずれも教育と利他性の関係について調べているものの、これらは必ずしも日本式のキャリア教育と利他性を直接的に示すものではなく、特に大学におけるキャリア教育とその後の利他性という効用関数の変化が実際に発生するのか、といった実証分析については今後の研究進展による課題であると考えられる。

2.2 心理学的な観点からの先行研究

心理学的な観点からは、向社会的（prosocial）特性や利他的（altruistic）特性が持つ影響力に

ついて考えることが多い。

Hu and Liden (2015) では向社会的モチベーションがチームの協力に影響を与え、ひいてはチームのパフォーマンスに影響を与えていることを示している、また、Farmer and Dyne (2017) では向社会的な個人は仕事へのアウトカムも多くなることを示した。なお、この論文解説はハヨン (2018) に詳しい。

キャリア教育と利他性の関係では、Ngai and Cheung (2009) において、香港の social work 関係の学部生 165 人への調査の結果、初期のキャリアは感情へ影響を与えるが、利他性と感情の間にはマイナスの関係はないとの結果が示されている。

また、日本のキャリアと利他性に関する研究では、森田 (2006) において、「専門性」を特徴づける 5 つの概念を「利他主義」、「自律性」、「知識・技術の習得と発展」、「資格等による権威づけ」、「仕事仲間との連携」と想定し、大学 2 年生への調査及び因子分析の結果、5 つの概念各々への志向を測定する「職業専門性志向尺度」を完成させた。また専門性及び利他性が高い職業の 1 つとして、日本では医学部への進学が考えられる。森田 (2006) では医師を希望する学生に職業決定に影響があるものとして、人間関係と関連の強い「仕事仲間との連携」と、人間関係と関連の弱い「知識・技術の習得と発展志向」が職業決定に影響を与えることを示した。この他、より直截的な日本のキャリア教育と向社会性の関係では石橋他 (2020)、キャリア教育と自己実現の関係では石橋他 (2015) などで研究がみられる。

なお、「向社会的」に関する定義も議論は存在するが、本研究では Batson (2011) に依拠しているため割愛する。

2.3 本研究の位置づけ

これまで第 1 節及び第 2 節においてみてきたとおり、利他性に関する研究は経済学や心理学などで蓄積が進んでいるものの、大学におけるキャリア教育との関係についてはまだ緒についたとは言いがたい。また、日本では、中等教育においては偏差値及び内申書を重視した進路指導、大学においては新卒一括採用や終身雇用などを前提とした独自のキャリア教育を想定したキャリア教育を行っているのが現状である。また、キャリア教育の内容は各学校がおかれている状況に応じて決定している現状に鑑みると、キャリア教育の効果に関する研究が蓄積しているとは言いがたい。

本研究では、大学で行われているキャリア教育を想定する質問の中で、主に利己性と向社会性の関係について、Batson (2011) をもとに新井他 (2016) で開発された尺後を使用し、大学生の考え方に関する傾向を分析するもので、キャリア意識を介した自分の福利と他人の福利の関係性について 2 節で紹介した手法に準じつつ、実務的観点も踏まえた新たな視点を与えるという学問的貢献を行っていると考えられる。また、今回の調査では長引くコロナ禍が大学生の意識に与える影響もあわせ分析する観点からの学問的貢献を行うことも目的とする。

3. 分析方法及び対象

3.1 アンケート調査の内容

本研究では Batson (2011) が示したキャリア選択動機付け様式の価値観及び効力感の関係に関し、新井他 (2016) で開発された尺度を使用

した。ここでの「効力感」(実際に行うことができると考えている程度)に関する⑤向社会的行動(prosocial behavior)の定義は「行為者の動機の有無にかかわらず、他者に利益をもたらすような自発的な行動」を意味するものとしている。

アンケート調査(詳細は付表参照)では新井他(2016)をもとに、キャリア選択にかかる23項目について、「価値観(4問)」「効力感(1問)」に関する調査を行っている。

このうち「価値観」としての尺度は以下4つの様式を基軸とする。その際に、現在のキャリア教育等で実施されている重点的視点「利己性(自分のため)」を考察の基点とした。

- ①「利己性」自分自身の福利を増加させることを最終目標にする動機付け(自分の福利)
- ②「利他性」他者の福利を増加させることを最終目標にする動機付け(他人の福利)
- ③「集団性」集団の福利を増加させることを最終目標にする動機付け(集団の福利)
- ④「原理性」ある道徳的原理を守ることを最終目標にする動機付け(ルール等の遵守)

アンケート調査上では、「自分のため」「誰かのため」「みんなのため」「決まりだから」と表現した。

また、キャリア選択における【効力感】については、「自らのためだけでなく周囲や他者。社会への配慮をしたうえでの行動(向社会的行動)ができますか」と聞いている。

調査は①利己性～④原理性までの価値観については各々「全く思わない」「あまり思わない」「少しは思う」「思う」の4件法で、⑤の効力感については「全くできない」「あまりできない」「少しできる」「できる」の4件法で、各々質問した。

また、23項目の内容は、①上級学校への進学や職業選択を行うとき、インターンシップや進

学・就職に関する項目、②将来の夢や自己分析、キャリアプランなど自己分析に関する項目、③先輩や保護者、友人との相談など他者との関係に関する項目、に大別される。

本年度はこれに2項目を加え、25項目として、「アフターコロナ/ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感について、変化がありますか」「アフターコロナ/ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感について、変化がありますか」という質問にやはり「全く変化しない」「あまり変化しない」「少しは変化した」「変化した」の4件法で回答する選択肢を加えた。

3.2 アンケート調査の対象及び分析手法

アンケート調査は2021年7月中旬に首都圏私立大学経営学部3年生を対象に授業外課題として学習支援システム(manaba)及びGoogle Formを活用し実施された。回答者数は74(N=74)、欠損値はなかった。大学3年生を調査対象とした理由は、大学1年生時(2019年度)にはコロナ禍以前の大学生活を営んだ一方、2年生時(2020年度)にはコロナ禍により授業は全面オンライン、3年生時(2021年度)には過半の授業はオンラインと、大学生活の半分がコロナ禍の影響を受けているものの、通常的大学生活も知っている学年だからである。

分析手法については、基本的な考え方を実現するため、①「利己性」を目的変数、②「利他性」③「集団性」④「原理性」⑤「向社会的行動」を独立変数として、独立変数間の相関の高さを考慮しstepwise法による回帰分析を実施した。ただし、25項目目となる「アフターコロナ/ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境

を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感について、変化がありますか」については効力感を聞いていないため、回帰分析を行っていない。

4. 分析結果

アンケート調査に関する記述統計量は表1の

とおりである。特に①「利己性」については、選択肢1「全く思わない」を選択する被験者がいない間もある一方、⑤「向社会的行動」については選択肢1「全く思わない」を選択する被験者はいるため、平均値は①「利己性」のほうが⑤「向社会的行動」よりも小さい一方、標準偏差は⑤「向社会的行動」のほうがより大きくなる傾向はあるようである。

表1 記述統計量

	問1					問2				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.76	2.70	2.30	2.22	3.18	3.66	2.53	2.46	2.38	3.16
標準偏差	0.46	0.91	1.00	0.90	0.64	0.53	0.98	1.00	0.98	0.68
最小値	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	3	3	2	3
最大値	6	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問3					問4				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.78	2.45	2.11	2.38	3.07	3.80	2.19	2.01	2.45	3.04
標準偏差	0.53	1.00	0.98	1.06	0.74	0.49	0.98	0.97	1.05	0.72
最小値	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1
中央値	4	2	2	2	3	4	2	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問5					問6				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.80	2.73	2.30	2.42	3.14	3.78	2.59	2.23	2.30	3.20
標準偏差	0.46	1.00	1.04	1.01	0.64	0.53	0.96	0.98	0.98	0.68
最小値	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	3	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問7					問8				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.74	2.58	2.20	2.23	3.04	3.66	2.54	2.08	2.07	3.07
標準偏差	0.55	0.97	0.94	1.01	0.74	0.66	1.07	0.98	0.96	0.74
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	2	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問9					問10				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.77	2.91	2.28	2.36	3.18	2.96	3.36	3.20	2.12	3.30
標準偏差	0.53	0.99	1.02	1.02	0.58	0.99	0.88	1.00	0.97	0.65
最小値	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2
中央値	4	3	2	2	3	3	4	4	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問11					問12				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.80	2.99	2.27	2.11	3.20	3.66	2.81	2.58	2.36	3.20
標準偏差	0.46	0.95	1.03	1.01	0.59	0.60	1.00	1.08	1.05	0.72
最小値	2	1	1	1	2	2	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	3	3	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問13					問14				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.81	2.93	2.47	2.14	3.24	3.72	2.47	2.32	2.07	3.08
標準偏差	0.48	0.98	1.07	1.00	0.67	0.56	1.03	1.07	0.98	0.82
最小値	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	2	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問15					問16				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.74	2.64	2.26	2.24	3.15	3.81	2.69	2.36	2.12	3.24
標準偏差	0.49	1.02	1.05	1.01	0.75	0.42	1.00	1.07	1.00	0.63
最小値	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	3	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問17					問18				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.53	2.92	2.76	2.08	3.22	3.74	2.69	2.35	1.99	3.07
標準偏差	0.77	0.98	1.09	0.96	0.76	0.52	0.99	0.99	0.89	0.76
最小値	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1
中央値	4	3	3	2	3	4	3	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問19					問20				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.74	2.61	2.34	1.95	3.15	3.74	2.68	2.28	2.04	3.12
標準偏差	0.57	1.09	1.06	1.03	0.75	0.59	1.04	1.02	1.05	0.84
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央値	4	3	2	2	3	4	3	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問 21					問 22				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.74	2.45	2.18	2.11	3.08	3.55	2.58	2.45	2.08	3.11
標準偏差	0.59	0.96	0.98	1.01	0.82	0.72	1.04	1.07	1.01	0.76
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央値	4	2	2	2	3	4	3	2	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

	問 23					問 24				
	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会	①利己性	②利他性	③集団性	④原理性	⑤向社会
サンプル数	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
平均	3.73	2.73	2.43	2.22	3.15	3.69	3.05	2.93	2.46	3.30
標準偏差	0.60	1.09	1.07	1.08	0.69	0.68	1.03	1.07	1.04	0.67
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
中央値	4	3	2	2	3	4	3	3	2	3
最大値	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

アンケート調査の分析結果は表2のとおりである。ここから得られた結果は以下3点にまとめられる。

第1に、今回の調査では設問24項目のうち10項目の設問に対しては①「利己性」と②「利他性」、③「集団性」、④「原理性」、⑤「向社会的行動」いずれも相関が見いだせなかったことである。また、相関がみられなかった10項目の具体的な設問は以下3分野に大別される。

1つ目の分野は、三密に抵触するため行動制限がかかるもので、設問6：インターンシップや職場体験が該当する。

2つ目の分野は、時間的に数年が経過しているもので、設問1：高校の選択基準、設問2：入学後の自己理解、設問8：大学入学試験区分、設問12：高校生活が該当する。

3つ目の分野は、1年以上先となるような比較的長期的な進路選択設問で、設問15：職業研究、設問9：職業選択、設問11：将来のライフプラン、設問16：キャリアプラン、設問18：先輩に聞く上級学校研究が該当する。

コロナ以前にはすべての項目で相関が見いだせなかった設問はここまで多くなく、長引くコ

ロナ禍が就職活動を控えた大学3年生における「利己性」と他項目の両立しないという新しい影響を与えていることが示唆される。

第2に、①「利己性」とは何等かの形で相関関係がみられた14項目のうち11項目において、①「利己性」と⑤「向社会的行動」の回帰係数が正で有意になった一方、負の相関はみられなかったことである。具体的な設問は以下3つの分野に大別される。

1つ目の分野は、短期的な課題に関する問で、設問4：教科の選択、設問23：上級学校への進学が該当する。

2つ目の分野は、被験者で比較的明らかに判断できる選択に関する問で、設問3：文理選択、設問7：大学進学、設問10：後輩への話、設問14：自分を知るとき、設問19・20：先生や保護者等への相談、が該当する。

3つ目の分野は、将来の環境と自分に関する問で、設問17：職業インタビュー、設問22：産業・職業変化、設問24：コロナ後の労働環境、が該当する。

ここから、長引くコロナ禍でも短期的な課題や比較的明らかにしやすい範囲を中心に「利

己性」と「向社会的行動」が関係していることが考えられ、自分の福利と考えていることと、向社会的行動が両立しうることを示唆していることが窺える。

第3に、①「利己性」と②「利他性」で設問3：コース選択や文理選択について負の相関を示し、①「利己性」と④「原理性」では、4つの質問項目（設問5：職業研究、設問13：将来の夢と生き方、設問20：先生、保護者、先輩、友達への相談、設問21：進路適正を知る）、で負

の相関があることが示されたことである。これらの項目では「自分のため」と「他人のため」あるいは「規則・慣習のため」がトレードオフの関係であることを示しており、「他人のために自分を犠牲にする」「自分のために他人を犠牲にする」あるいは「規則・慣習のために自分を犠牲にする」「自分のために規則・慣習を犠牲にする」といういずれかの選択を迫られていることを示唆している。

表2 分析結果

設問1 あなたが（以下省略）、高校を選択するときに思った価値観（動機）（以下【価値観】と表記）と効力感（実際）（以下【効力感】と表記）はどうでしたか

項目	標準化係数（ベータ）	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問2 入学後に行った（行う）自己理解検査や（職業レディネステストなど）をする際の価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数（ベータ）	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問3 コース選択や文理選択をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数（ベータ）	t 値	有意確率	相関係数
5.	.369	3.313	.001	.314
2.	-.255	-2.288	.025	-.176

調整済み決定係数 .161

設問4 教科・選択科目を選ぶときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数（ベータ）	t 値	有意確率	相関係数
5.	.288	2.551	.013	.288

調整済み決定係数 .083

設問5 職業研究をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
4.	-.250	-2.193	.032	-.250
調整済み決定係数		.063		

設問6 インターンシップ（職場体験実習）や職場見学等を体験するとき（したとき）の価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				
調整済み決定係数				

設問7 上級学校（四年制・短期大学・専修学校等）の研究をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
5.	.491	4.785	.000	.491
調整済み決定係数		.241		

設問8 入学試験区分（指定校・公募制・スポーツ等の推薦入試）の選択をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				
調整済み決定係数				

設問9 将来、職業選択（就職先を選択）をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				
調整済み決定係数				

設問10 卒業をする際、1,2年生に向け話をするときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
5.	.332	2.985	.004	.332
調整済み決定係数		.110		

設問11 今後、将来のライフプランニング（生活設計）を考えるとときの価値観と効力感はどうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				
調整済み決定係数				

設問 12 高校生活全体を考えるとときの価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問 13 将来の夢と生き方を考えるとときの価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
4.	-.309	-2.753	.007	-.309

調整済み決定係数 .095

設問 14 自分を知るとき (自己分析をするとき) の価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
5.	.258	2.263	.027	.258

調整済み決定係数 .066

設問 15 職業を知るとき (職業研究をするとき) の価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問 16 職業とキャリアプラン (将来設計) を考えるとときの価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問 17 職業インタビューを実施するときの価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
5.	.312	2.787	.007	.312

調整済み決定係数 .097

設問 18 先輩に聞くなどの上級学校研究をするときの価値観と効力感は、どうですか

項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
相関が見いだされなかった				

調整済み決定係数

設問 19 先生や保護者、先輩、友達に選択教科・科目を相談するときの価値観と効力感は、どうですか

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	5.	.279	2.469	.016	.279
調整済み決定係数		.078			

設問 20 先生や保護者、先輩、友達に進路先を相談するときの価値観と効力感は、どうですか

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	5.	.306	2.785	.007	.307
	4.	-.221	-2.010	.048	-.223
調整済み決定係数		.143			

設問 21 進路適性を知るときの価値観と効力感は、どうですか

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	4.	-.270	-2.376	.020	-.270
調整済み決定係数		.073			

設問 22 産業・職業の変化を知るときの価値観と効力感は、どうですか

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	5.	.285	2.520	.014	.285
調整済み決定係数		.081			

設問 23 上級学校(学部・学科・コース等)への進学や企業などへの就職を準備するときの価値観と効力感は、どうですか

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	5.	.390	3.598	.001	.390
調整済み決定係数		.152			

設問 24 アフターコロナ/ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感については、どうですか(変化があれば、変化を踏まえて回答をお願いします)

大 学 (2021年 3年生)	項目	標準化係数 (ベータ)	t 値	有意確率	相関係数
	2.	.304	2.744	.008	.414
	5.	.299	2.704	.009	.411
調整済み決定係数		.249			

(備考) ①「利己性」を目的変数とした場合、項目 2.「利他性」、3.「集団性」、4.「原理性」、5.「向社会行動」を独立変数とした場合の回帰分析。

5. 考察

本研究を通じて考察されることは以下のとおりである。

第1に、2021年度3年生においては、10項目の設問に対し相関が見いだせないという結果になったことは、自分のためが強く、他の社会的な視点が見いだせていないと受け止めることもできることである。この要因の1つとして、コロナ禍においてインターンや友人との接触が限定的になっている中で、1年を超えるコロナ禍対応によりコロナ以前の生活を忘れつつあることもあげられるのではないかと考えることができる。

第2に、11設問にわたり相関関係がみられた①利己性と⑤向社会的行動の標準偏回帰係数がすべて正で有意になったことから、たとえ「利己性」と考えていても可能な範囲で向社会的行動もとれることが判明したことである。これは、コロナ禍においてキャリア選択の動機付け様式としてサバイバル指向が強まり自分自身の生き残りという現実的なものになっていると推察できる。また、傾向が見いだせないものが多い中においても、新型コロナ禍においては、他者や向社会的行動をとって乗り越えるしかないという価値観があると考察することができる。

第3に、将来の夢の展望や周囲との相談において、①利己性と④原理性で負の相関がみられたことについては、職業・進路選択や教師・保護者等との相談では自分の意志と学校のルール・保護者の考えなどの間で葛藤している学生の姿が想像される。

第4に、コロナ禍において、「将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効

力感については、どうですか」という設問に対しては、標準偏回帰係数が、「利他性」(.304)、「向社会的行動」(.299)と正で有意になった。災難・危機的ともいえる状況下において、自分自身で何とか対応しなくてはならないともいうべき、現実的自己指導力の高まりが、このような結果をもたらしていると思われる。

6. まとめ

本研究では、コロナ禍を過ごしている大学3年生においても自分の福利のためと考えていることと、他人の福利、集団の福利、原理性そして向社会的行動をとることは両立するか、という仮説について、Batson (2011) の整理を活用し、新井他 (2016) の手法を用いて分析を行った。その結果、「自分のため」とする価値観が高くても一定程度の向社会的行動がとれることが明らかになった。また、コロナにより制限のかかる行動や数年程度の過去や将来を中心に相関がない回答が増加しており、長引くコロナ対応が学生の考え方にも影響を与えていることが示唆されていることも判明した。さらに、「自分のため」と「学校や社会のルール、保護者の考え等」との間で葛藤する学生の姿も垣間見ることができた。

この結果は、短期的にはコロナ対応が続く中での学生への指導手法へのヒントを、長期的にはコロナ後を見据えた今後のキャリア教育を展開させる指針を考えるの上での材料の1つとなると思われる。今後、今回検証された仮説の汎用性をさらに検証するためにも、大学4年生へと対象を広げて調査を実施、比較分析を図りたいと考えている。

謝辞：この研究は、文教大学経営学部共同研究費による支援を受けたものである。

参考文献

- 新井立夫、山岡三子、石塚浩 (2016)「社会的動機の様式(利己性・利他性・集団性・原理性)におけるキャリア選択の分析—キャリア選択の動機・認知様式に関して」文教大学経営論集2(6), pp.1-23。
- 石橋里美、林潔、内藤哲雄 (2015)「キャリア教育からみた大学生のキャリア目標設定行動に及ぼす要因分析」東京未来大学研究紀要8, pp.13-25。
- 石橋里美、林潔、内藤哲雄 (2020)「大学生における職業専門性志向が自己成長主導性に及ぼす影響」応用心理学研究45(3), pp.230-237。
- 大垣昌夫、大竹文雄 (2019)「規範的行動経済学と共同体」行動経済学12, pp.75-86。
- 櫻井宏明 (2022)「キャリア教育にかかる先行研究とその背景」文教大学経営論集、近刊。
- ハヨンシン (2018)「『メンバーが利他的であるほどチームはうまく機能するといえるのか』—チームワークメカニズム解明の糸口としての利他性概念について Hu, J., and Liden, R. C. (2015) “Making a Difference in the Teamwork: Linking Team Prosocial Motivation to Team Progresses and Effectiveness”, Academy of Management Journal 58(4), pp.1102-1127.」日本労働研究雑誌665, pp.104-106。
- 森田慎一郎 (2006)「大学生における職業の専門性への志向：尺度の作成と医学部進学予定者の職業決定への影響の検討」発達心理学研究17(3), pp.252-262。
- Alan, S. and S. Etrac (2018). Fostering patience in the classroom: Results from randomized educational intervention. Journal of Political Economy 126(5), pp.1865-1911.

- Algan, Y., Cahuc, P., and Shleifer, A. (2013) “Teaching Practices and Social Capital”, American Economic Journal: Applied Economics 5(3), pp.189-210.
- Batson, C. D.(2011)“Altruism in humans”, Oxford University Press. (菊地章夫・二宮克美訳 (2012)『利他性の人間学：実験社会心理学からの回答』新曜社：309, pp.325-330.)
- Bhatt, V., Ogaki, M., and Yaguchi, Y. (2015) “Normative Behavioural Economics Based on Unconditional Love and Moral Virtue”, Japanese Economic Review 66(2), pp.226-246. (翻訳：Bhatt, V., 大垣昌夫、矢口裕一 (2017)「無条件の愛と道徳的な徳にもとづく規範行動経済学」三田学会雑誌104(4), pp.21-46.)
- Cantoni, D., Y. Chen, D. Y. Yang, N. Yuchtman and Y. J. Zhang, 2017. Curriculum and ideology. Journal of Political Economy 125(2), pp.338-392.
- Farmer, S. M., and Dyne, L. V. (2017) “Organization-specific Prosocial Helping Identity: Doing and Belonging as the Basis of ‘Being fully there’”, Journal of Organizational Behavior, 38, pp.769-791.
- Hu, J., and Liden, R. C. (2015) “Making a Difference in the Teamwork: Linking Team Prosocial Motivation to Team Progresses and Effectiveness”, Academy of Management Journal 58(4), pp.1102-1127.
- Ito, T., Kubota, K., and Ohtake, F. (2020) “Long-term Consequences of the Hidden Curriculum on Social Preferences”, the Japanese Economic Review.
- Ngai, S. S., and Cheung, C. (2009) “Idealism, Altruism, Career Orientation, and Emotional Exhaustion among Social Work Undergraduates”, Journal of Social Work Education, 45(1), pp.105-121.

(付表) キャリア教育に関する調査 (アンケート) について

キャリア選択の向社会的動機・行動について、その認知様式および行動様式に関するアンケートを実施し、キャリア選択の指導に役立てたいと考えています。本アンケートでは、向社会的動機・行動を次の4つの項目に整理し、それぞれについて学生の皆さんが、どのように感じ、実際に自分から出ているか又はできるかを調査しますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

《用語の解説》

- ①自分のため (利己性：自己の利益のために行う動機・行動)
- ②誰かのため (利他性：他者(例えば身近な人(家族や親友、恋人等)の利益のために行う動機・行動))
- ③みんなのため (集団性：集団(例えばあなたが所属しているやや大きい集団(親戚：町内：クラスや学校等)の利益のために行う動機・行動集団(例えばあなたが所属しているやや大きい集団(親戚：町内：クラスや学校等)の利益のために行う動機・行動))
- ④決まりだから (原理性：道徳的原理や特定の価値観や信条、教条のために行う動機・行動)
- ⑤向社会的行動 (自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来る)

★アンケート項目に対して回答をするときには、質問項目に関してキャリアに対する①②③④⑤のそれぞれの側面も思考するようにして、回答をお願いいたします。

性別を教えてください。 男性 女性 回答しない

例示：以下では、価値観(4問から構成されています)と効力感(1問)について、各々ご自身の考え方を選択してください。

【価値観】(何が大切で、何が大切でないかという判断)の尺度

あなたが上級学校を選択するときの動機【価値観】と実際【効力感】はどうかという問に対して、4段階(1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う)の回答選択肢の中で、選択をする。

上級学校を選択するときに思った価値観(動機)

- ①自分のため： 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う
- ②誰かのため： 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う
- ③みんなのため： 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う
- ④決まりだから： 1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う

【効力感】(実際に出来ているか、出来るかという行為)の尺度

「あなたが上級学校を選択するときの動機【価値観】と実際【効力感】はどうか」という問に対して、4段階(1 全く思わない 2 あまり思わない 3 少しは思う 4 思う)の回答選択肢の中で、選択をする。

あなたは、問いに対してどのくらい向社会的行動(他者に利益をもたらすような自発的な行動)が出来ていると思うのか、4段階(1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る)の回答選択肢の中で、選択をする。1つだけマークしてください。

- 1 向社会的行動が全く出来ない
- 2 向社会的行動が余り出来ない
- 3 向社会的行動が少し出来る
- 4 向社会的行動が出来る

II〔キャリア選択アンケート〕

あなたが、以下問に関する価値観(動機)(以下【価値観】と表記)と効力感(実際)(以下【効力感】と表記)について回答してください。

※以下から具体的な項目の回答をしていただきますが、皆さんが実施していない項目は、これから行うとした場合を想定して、回答してください。また、終えてしまっている項目は、過去形にとらえて直して回答してください。(例：出来ますか→出来ましたか、出来る→出来た)

1. あなたが(以下省略)、上級学校を選択するとき思った価値観(動機)(以下【価値観】と表記)と効力感(実際)(以下【効力感】と表記)はどうか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が:1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

2. 今までに行った（行う）自己理解検査や（職業レディネステストなど）をする際の価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

3. コース選択や就職・進学（文理選択など含）をするときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

4. 教科・選択科目を選ぶときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

5. 職業研究をするときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

6. インターンシップ（職場体験実習）や職場見学等を体験するとき（したとき）の価値観と効力感
はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

7. 上級学校（大学・専修学校等）もしくは就職先の研究をしたときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

8. 就職試験（学校推薦等）および入学試験区分（指定校・公募制・スポーツ等の推薦入試）の選択をしたときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

9. 将来、職業選択（上級学校進学後の就職先を選択含）をするときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

10. 卒業をする際、在校生に向けて体験談などの話をするときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

11. 今後、将来のライフプランニング（生活設計）を考えるときの価値観と効力感はどうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

12. 上級学校での生活全体を考えるときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

13. 将来の夢と生き方を考えるときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

14. 自分を知らるとき（自己分析をするとき）の価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

15. 職業を知らるとき（職業研究をするとき）の価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

16. 職業とキャリアプラン（将来設計）を考えるとときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

17. 職業インタビューを実施するときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

18. 先輩に聞くなどの就職先や上級学校研究をするときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

19. 先生や保護者、先輩、友達に選択教科・科目を相談するときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

20. 先生や保護者、先輩、友達に進路先を相談するときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

21. 自身の進路適性を知るときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

22. 産業・職業の変化を知るときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|-----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | : 1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | : 1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が : 1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

23. 大学院等への進学や民間企業・行政機関（公務員）などへの就職を準備するときの価値観と効力感は、どうですか

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が：1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

24. アフターコロナ／ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感については、どうですか（変化があれば、変化を踏まえて回答をお願いいたします）

【価値観】

- | | | | | | | | | |
|---------|----|--------|---|---------|---|-------|---|----|
| ①自分のため | :1 | 全く思わない | 2 | あまり思わない | 3 | 少しは思う | 4 | 思う |
| ②誰かのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ③みんなのため | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |
| ④決まりだから | :1 | 〃 | 2 | 〃 | 3 | 〃 | 4 | 〃 |

【効力感】

自らのためだけでなく周囲や他者・社会への配慮をしたうえでの行動が出来ますか

- ⑤向社会的行動が：1 全く出来ない 2 余り出来ない 3 少し出来る 4 出来る

25. アフターコロナ／ウイズコロナを踏まえて、将来の働く環境を考えたり、準備したりするときの価値観と効力感について、変化がありますか

- 1 全く変化しない 2 あまり変化しない 3 少しは変化した 4 変化した



Journal of Public and Private Management

Vol. 8, No. 5, March 2022, pp. 1-23

ISSN 2189-2490

The Relationship between the Pro-sociality and Four Human Values for third-year university students under the COVID-19 crisis

Tatsuo Arai

Faculty of Business Administration, Bunkyo University

✉ tatsuo@bunkyo.ac.jp

Hiroaki Sakurai

Faculty of Business Administration, Bunkyo University

✉ hsakurai@bunkyo.ac.jp

Hiroshi Ishizuka

Faculty of Business Administration, Bunkyo University

✉ ishizuka@bunkyo.ac.jp

Received: 12, January, 2022

Abstract

This paper examines the relationship between the pro-sociality and four human values, egoism, altruism, collectivism, and principlism, for third-year university students under the COVID-19 crisis for contributing to the career education in the university. Results is summarized as follows. First, the altruism is compatible to the pro-society at a certain extent. Second, long time future and past are forgotten among students due to the restriction of the daily life such as the activity in the university. Third, there are some conflicts among the altruism, the parents' thinking, and rules in the school or society.

Keyword : Career selection, Egoism, Altruism, Collectivism, Principlism, Pro-sociality, COVID-19

Faculty of Business Administration, Bunkyo University

5-6-1 Hanahata, Adachi, Tokyo 121-8577, JAPAN

Tel +81-3-5688-8577, Fax +81-3-5856-6009

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/business/>

経営論集 Vol.8, No.5

ISSN 2189-2490

2022年 3月31日発行

発行者 文教大学経営学部 石塚 浩

編集 文教大学経営学部 研究推進委員会

編集長 山崎 佳孝

〒121-8577 東京都足立区花畑5-6-1

TEL : 03-5688-8577 FAX : 03-5856-6009

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/business/>